
Dread Blood

秋月紅葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D r e a d B l o o d

【Nコード】

N 5 9 0 2 E

【作者名】

秋月紅葉

【あらすじ】

血を、恐れるな。死を、恐れるな。目を、逸らすな。答えはすべて闇の中にあるのだから。不可解な事件の謎を、何があっても必ず解いてみせる。5人の若者が立ち向かう。

ブローグ

朝は子供達や鳥、虫の声が絶えないこの場所、そう、入江旭村。いりえあさひ

壮大な山々に囲まれ、自然溢れるこの村にいと、都会の騒々しさを忘れてしまう。

というより、僕はこの村に住みっぱなしなだけだね。

僕はこの村の医者、千葉秀敏ちばひでとしです。

まあ医者といっても、とても小さな診療所の医者にすぎませんけどね。

そして僕はまだ27歳といった、まだまだ未熟な医者です。

医療免許を取得しているだけ良いんですけどね（笑）

ここはのどかな村です。大きな手術なども、特に無いですからね。

お年寄りの方々も、子供達もみんな健康的で、重病を宣告した記憶も無い。凄いことだ。

今日も何事も無く1日が始まるのかと思っていた。：違った。僕のもとに一通の電話が届いた。

声の主はまさしくさなえさんだ。ずっと逢いたかった想い人の、松^ま木^{つき}さなえさんじゃないか！

僕は飛び上がって喜んだ。さなえさんがなんと今日、帰ってくるからだ。

さなえさんは都会で画家として活動している。

風景画でこの村を題材にするらしく、しばらく村に帰郷するらしい。

僕には朗報だ。ずっと逢いたかったあの子に逢えるから。

小さい頃、彼女と家が近かったから、よく遊んでいた。

夜まで連れ回して、村中という大規模な騒動まで巻き起こしたこともあったつけ。

今となれば恥ずかしい思い出だ。思い出すだけでも顔が紅潮する。

けれど、彼女の無邪気な笑顔がまた見れると思うと、胸が弾む。

よし、今日は浮かれすぎないようにしよう。患者さんに間違えて変な薬を出してしまいそうだ。

夕方、郊外の駅に車を走らせた。さなえさんを迎えに行くためだ。

お生憎、入江旭村はド田舎で交通機関が不便だ。

バスは1日に4度ほどしか来ない。しかも往復じゃない。

交通機関だけじゃない、電気や水道だってたまに怪しい。

蛇口を捻っても捻っても水が出ない。おかしいなと思って水道口を覗き込む。大量の水が顔面を直撃する。

眠い時は一気に目が覚めて便利だが、愛用の眼鏡が濡れて大惨事になるから注意しよう。

電気も電球が切れたのかと思い、近くの用品店から電球を買ってくる。

ブレーカーが落ちていただけという、僕の思い込みだった。

あの時ちゃんとブレーカーをチェックしていればと、後になってかなり悔やむ。

なんで僕ってこう、何処か抜けてるんだろう…ああ、考えれば考えるほど悲しくなるからやめよう。

まあ電気は僕の思い込みとかが多いけど、本当に落ちるときは村全体が停電になるから要注意だ。

駅に着くと、さなえさんがこっちに向かって手を振っていた。

ああ、懐かしい笑顔だ。僕の愛しい人が目の前にいる。

僕は駆け出していった。愛しい人をこの両腕で抱きとめた。

さなえさんの顔が僕の胸中に隠れる。なんだか苦しそうだ。でもそれがなんだか可愛い。

さなえさんが僕を見上げる。ふふつと笑う。僕もつられて笑った。

帰りの車は最高に楽しかった。こんなに笑ったのは久しぶりと言うぐらいに。

君がいれば僕は何にもいらないよ。君だけをずっと見ていたい。君を僕のものにしたいくらいだ。

ああ、絵が完成すればまた東京に戻ってしまうんだね。またここに住めばいいのにさ。そういう訳にもいかないんだよね…悲しくなった。

……さて、ここからが本題になる。

入江旭村は現在、怪奇現象に悩まされている。いや、現象ではない。事件に惑わされている。

そう、この話題がこの物語のメインとなる。……その名も、入江旭村腕なし連続虐殺事件。

毎晩、1人の村人が両腕を刈り取られ死亡する、残虐極まりない事件だ。

…犯人は誰なのか分らない。僕が検死などに関わっているため、僕を疑う村人も少なくは無い。

そんな中の出来事だった。村長がとうとう殺されたのだ。

死因は大量出血によるもの。この死に方で死ぬ人はみんなこれだ。

僕の疑いが一層強くなった。僕は犯人じゃない！決して！！

……誰も信じてくれなかった。さなえさん、君しか信じてくれる人がいないんだ。

僕は決めた。この奇怪な事件に立ち向かう、と。

警察とさなえさんは唯一僕を信じてくれている、大切な仲間。

他にも僕を信じてくれている村人がきつというはずだ、きっと。

血を、恐れるな。死を、恐れるな。目を、逸らすな。

闇の先には真実があるんだ！！

仲間と共に、答えを見つけ出す。この手で、あの時の平和なひと時をまた取り戻す！！

さあ、光を…探せ。

入江旭村腕なし連続虐殺事件

(1978年8月13日～29日)

恐怖の戦慄なる血が、惨劇という名の悪夢を呼び覚ます。

D r e a d B l o o d ドレッド・ブリード

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5902e/>

Dread Blood

2011年1月20日03時02分発行